

金沢大学学術情報リポジトリ (KURA) の運営について

著者	内島 秀樹
雑誌名	日本農学図書館協議会誌 = Bulletin of the Japan Association of Agricultural Librarians and Documentalists
巻	158
ページ	10-11
発行年	2010-06-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/24257

金沢大学学術情報リポジトリ (KURA) の運営について

The Operation of Kanazawa University
Repository for Academic Resources (KURA) since 2006

内島 秀樹*

1. 初めに

金沢大学では、平成 18 (2006) 年 6 月から、金沢大学学術情報リポジトリ (Kanazawa University Repository for Academic Resources = KURA) (注 1) を立ち上げて、本学の研究成果の公開を開始した。これは機関リポジトリの導入を支援する国立情報学研究所の Cyber Science Infrastructure 事業 (CSI) (注 2) による委託事業として導入されたものである。機関リポジトリはすでに全国 100 以上の大学や研究機関で導入されており、我が国のリポジトリ数はアメリカ・ドイツに次いで世界第 3 位となっている。以下、金沢大学における KURA の導入過程、運営の実際、CSI 委託事業、今後の課題について順に述べる。

2. 金沢大学における導入過程

すでに、CSI の報告会でも紹介しているので簡単に触れる。詳しくは、NII の関連サイト(注 3)を参照されたい。

平成 17 年度、国立情報学研究所の CSI に他の 16 大学とともに委託機関として採択されたため、情報企画会議 (情報担当理事所掌の基幹会議) の下に「金沢大学機関リポジトリのあり方に関する検討委員会」を、理事を委員長として立ち上げた。委員会では、リポジトリの設置目的や対象コンテンツなどを検討し、金沢大学学術情報リポジトリ設置規程を策定した。設置規程は情報企画会議及び教育研究評議会で承認され、本学のリポジトリが正式に認知されることになった。KURA の運営に関しては、委員会での検討を踏まえて、図書館委員会が担当することになり、図書館委員会によって KURA 運用指針が策定された。

委員会での検討と並行して、図書館職員による WG を立ち上げて、システムの選定・導入、教員の執筆論文のリスト作成と登録許諾依頼、初期コンテンツのデジタル化及び登録などの作業を行った。システムは DSpace (バージョン 1.4) を採用し、外注によりハードウェアの導入とシステムのセットアップを行った。初期コンテンツは、先の執筆論文調査によるリストに含まれる本学発行の紀要掲載論文が中心である。リポジトリの意義や目的に関しては、WG のメンバーで全部局教授会を訪問して簡単な説明を行っている。

3. 運営の実際

KURA の運営は、係長 1 名、非常勤職員 (週 20 時間程度) 1 名によって行っている。非常勤職員は KURA 専任であるが、係長は他の業務 (図書館システム保守、情報リテラシー教育等を兼務) との兼任である。人件費及び運営費は CSI による委託予算と学内措置の予算 (金沢大学特別整備事業による経費) によっている。

本学発行の紀要タイトルについてはほぼ 100% リポジトリへの登録が許諾されているが、医学類 (旧医学部) が発行する十全医学会雑誌については、最近 2 年分を除いて KURA への登録が認められている。これは同誌が販売ルートに乗っており、メディカルオンラインなどにも収録されていることが背景にある。過去分についてはデジタル化と登録を進めている。これ以外でも COE の報告書や科研報告書、プレゼンテーション資料など多様なコンテンツを収集している。

平成 22 年 3 月現在で約 2 万件のコンテンツを蓄積・発信し、検索エンジンのロボットによる巡回ダウンロー

* 金沢大学附属図書館 〒920-1192 金沢市角間町

Hideki UCHIMA, Kanazawa Daigaku, Kakuma-machi, Kanazawa-shi Ishikawaken 920-1192

ドを含めて、公開以来の累積で180万件以上のダウンロードを記録している。なお、ダウンロード統計から見たリポジトリの意義については、平成22年2月に本学が開催したワークショップDRF-KanNihonkaiでの発表(注4)に詳しい。

本学の総合メディア基盤センターの学術情報部門では、DSpaceをプラットフォームとして、学内の教員と協力して教育素材としての宗教画像の公開を実験的に行っている。センターでは、附属図書館とも連携しながら、学内教員の様々の学術資源の発信・保存のニーズを踏まえて、テキストに限定されない多様な形式のデータやコンテンツを発信していく予定である。こうした学内連携と学外発信のためにワンストップ(ポータル)サービスを提供する必要があり、附属図書館では、DSpaceをプラットフォームとする学内ハブスターの実験的な導入も行っている。

リポジトリ運営にとって最も重要な活動である論文収集は、エルゼビア社の文献データベースScopusによって本学の教員が執筆した論文を検索し、メールで教員に提供を依頼している。また、CSIにより、本学の業績データベースである教員総覧とKURAとの連携を実現しており、教員は業績更新時に論文を送付することも可能になっている上、教員総覧とリポジトリ相互にリンクを実装して、相互閲覧の簡便化とコンテンツの視認性の向上を図っている。

4. CSI委託事業(領域1及び領域2)

本学は、平成20～21年度のCSI(第二期)により、領域1(リポジトリの導入・運営)、領域2(研究・開発)の2領域で事業を受託している。このうち領域1では、平成21年度には、利用者(教員)への論文ダウンロード統計のメール通知機能等を外注により導入した。領域2では、上記の業績データベースとリポジトリの連携プログラムの開発をテーマとして、NIIの研究者リゾルバ(注5)との連携実験を行っている。この実験はオープンアクセス・コンテンツを著者同定キー(プロジェクトでは、科研個人番号を利用)により追跡・同定することが目的である。欧米では、オープンアクセス環境におけるコンテンツや著者の同定識別子の策定が基盤整備の課題となっており、同じ文脈で、我が国におけるプロトタイプの実装実験を行うものでもある。

同じく領域2では、「機関リポジトリコミュニティの活性化」をテーマとして、国内107機関(平成22年

2月確認)とともにデジタルリポジトリ連合(Digital Repository Federation = DRF)(注6)に参加して、リポジトリ運営のための情報共有活動やワークショップ、国際会議開催などの連携活動を行っている。

5. 今後の課題

リポジトリ運営でもっとも重要なことは、オープンアクセスの意義や大学の研究成果の公開という社会的責務を教員に理解してもらい、コンテンツ数を増やすことに尽きる。本学の論文の提供依頼に対する回答率は、2007

理工系	著者最終原稿			出版社版			合計		
	依頼	回答	回答率	依頼	回答	回答率	依頼	回答	回答率
2007	161	47	29.2%	68	17	25%	229	64	28%
2009	199	48	24.1%	77	30	39%	276	78	28%

医薬系	著者最終原稿			出版社版			合計		
	依頼	回答	回答率	依頼	回答	回答率	依頼	回答	回答率
2007	225	47	20.9%	21	4	19%	246	51	21%
2009	379	100	26.4%	54	17	39%	433	117	27%

年と2009年を比較すると上記のようにになっている(注7)。

全体として投稿数は20%台で推移している。医薬系及びいわゆる出版社版についてはある程度の上昇率を示している。後者については多くの研究者が出版社版のPDFを所有するのは当然であり、それが回答率に反映されつつあることが推測される。しかし、当然持っている想定される出版社版であっても、100%の投稿に結びついていないことは、リポジトリの意義について十分には学内認知を得ていないことを示している。著者最終稿についてはこれを残す習慣もまだ揺籃期であり、研究者に対する理解促進のためのより一層の努力が必要である。

リポジトリ運営の本質は研究者に対する理解促進活動(アドボカシー)であり、図書館員自身が十分な理解とインセンティブを持つことが必須である。そのため、図書館内部での業務所掌を超えたりポジトリとオープンアクセスへの理解促進も今後の大きな課題と言えよう。

注

- (1) <http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/>
- (2) <http://www.nii.ac.jp/irp/> (CSIの一つである学術機関リポジトリ構築連携支援事業)
- (3) <http://www.nii.ac.jp/irp/rfp/2005/pdf/kanazawa.pdf>
- (4) https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/dspace/bitstream/2241/104513/1/DRF_KN_sato.pdf
- (5) <http://rms.nii.ac.jp/>
- (6) <http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?Digital%20Repository%20Federation>
- (7) <http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/bitstream/2297/20525/1/02-5金沢大1.pdf>

(以上のURLの最終確認日は、平成22年3月18日)